

ネイチャー・ウォーク

令和 5 年 10 月号
2023. 10. 22 発行
(通巻第 358 号)

ECO  SAITAMA

公益財団法人
埼玉県生態系保護協会

部会：自然を歩く会

■9月のネイチャー・ウォーク

「あバッタ ウェイ・オブ・NW」

ニューシャトル鉄道博物館駅 発 西武バス西武車庫前 着

大雨の後に再度猛暑となった9月10日(日)。2か月のネイチャーは、暑さを忌避したか参加者少なめ。あわせて9名でさいたま市内を歩きました。

コースリーダー兼スタッフAは歩く前から汗だく。

ゴールの三橋総合公園ウェットランドで、はいチーズ!



今回のコースはほぼ市街地の中を歩くコース。歩く場所もこんな住宅地と住宅地の合間。時折遠目に建設中のビルも見えます。

開発著しい都市部の中で、水害をどう防ぐのかという課題に対する自治体の取組を探ります。

大雨による災害の頻度も規模も近年大きくなってきており、これまでどおり、川の中だけ、堤防やダムといったインフラだけで水害を防ぐのは難しいと予想されることから、川の外を含む流域全体で水害に備える「流域治水」の考えに基づき、どんな備えを進めているのかを、見て回りました。



グラウンド内（赤点線）に水を一時的に貯める

目的地の一つ、精進場公園。いつものネイチャー・ウォークなら素通りされてしまうようなネイチャー的に見どころの薄い公園にも流域治水の秘密が。園内に降った水を溜めて、川へ流れ込むのを少し遅らせるという取組です。



増水した水が←方向から地下に流れ込み、もう一本の川を流れていく…という構造

【出水時(令和元年東日本台風時)】



(埼玉県 HP より引用)

さいたま市内を流れる川は両側にすぐ住宅やビルが迫ってきているので、川の容量を増やすのが中々難しい。ならば川を二階構造にしよう！ ということで見えている川の下にもう一本川を作っています。



大平（おおだいら）公園でも、公園の下に貯水施設を建設中。国が作る治水インフラ、堤防やダムだけに頼らない、自分の街は自分で守るという取組が進んでいます。

ところでこの工事、今年9月末で終わりとのことなんですが、あと半月強で完成するのでしょうか？

と、ここまでの取組はあまりネイチャーらしからぬ施設、自然の少ないインフラ（グレーインフラ）ばかりでしたが、自然環境にも野生の生き物がくらすだけでなく、洪水を緩和させたり、都市部の暑さを和らげたりする機能を持っています。こうした自然の持つマルチな機能に注目したインフラ（グリーンインフラ）と言える三橋総合公園のウェットランドを、昼食のあとに見て回りました。



ウェットランドの中ではチョウトンボやショウジョウトンボ、ギンヤンマなどのトンボが飛び交い、水の中にはヌマエビ類やヤゴも。道中少なかった自然をここぞとばかりに堪能しました。

暑い中でしたがネイチャー・ウォークは無事に終了しました。

ご参加いただき、ありがとうございました。次回もお待ちしております！